

ミクロネシア連邦チューク環礁における油の安全な除去に関する日米共同声明
(仮訳)

2024年8月28日

我々、高村正大外務大臣政務官及びカート・キャンベル米国務副長官は、ミクロネシア連邦チューク環礁における第二次世界大戦時の沈没船からの油を除去する日本政府の取組を認識し、共同協力の可能性を探るため、更に取り組を進めることを楽しみにしている。双方は、チューク州の観光産業における沈船ダイビングの重要な役割を認識し、チューク州政府およびミクロネシア連邦政府と緊密に協議しながら、このイニシアチブに取り組んでいる。

バイデン大統領と岸田総理大臣が4月の総理大臣のワシントン訪問時に発表したように、日米両国は戦略的協力の新時代を迎えている。こうした取組は、日米同盟が太平洋地域と世界の人々に利益をもたらしていることの証しである。

トンガで開催される太平洋諸島フォーラム（PIF）において、地域の要望に応える取組を示すため、このような発表を行えることは光栄である。我々の協力は、太平洋の優先事項、すなわち太平洋諸島フォーラムの「ブルーパシフィックのための2050年戦略」に沿った海洋と環境の保護を支援する上で、具体的な公共財を提供するという我々の共同のコミットメントの代表的な例である。